

育心拓夢

愛媛県総合教育センター所報 No.157
(平成30年3月8日発行)
<https://www.esnet.ed.jp/center/>
〒791-1136 愛媛県松山市上野町甲650番地
TEL 089-963-3111(代) FAX 089-963-3146

- 相談支援部長挨拶 …… 1
- 調査・研究発表会について …… 1
- 調査・研究発表会報告(各室) …… 2・3

- 長期・短期研修生の研究発表会報告 …… 2・3
- 調査・研究発表会参加者アンケート …… 4
- 平成30年度研修講座に関するお知らせ …… 4



「全教連愛媛大会を 終えて」

相談支援部長 水田 寿

昨年、11月16日・17日の2日間にわたって、全国各地から多くの方々に参加していただき、全国教育研究所連盟研究協議会(愛媛大会)が開催されました。大会テーマを「これからの時代の教員に求められる資質・能力を高める総合的な支援の在り方」とし、基調講演、各県の取組についての発表の後、二つの分科会で活発な協議が行われました。

お二人の助言者からいただいた「教員の育ちは実践的教育活動・研究を通して」「困っている時が成長のチャンス」「教員が学び、発達していくために支援するプロに」「自分たちが大切にしたいもの、解決したい課題は何かからカリキュラムを作る」「児童・生徒の育てたい資質・能力と教育課程をリンクさせる」などの助言により、教育センターや学校が今後目指すべき方向性が明確になりました。

本県においても、教員の大量退職、大量採用が始まっており、若年教員の質の維持向上、層の薄いミドル

層の教員の育成など、課題が山積しています。また、今年度中にいわゆる「教員育成指標」が策定され、キャリアステージに応じて求められる教員の資質・能力が明示されます。教育センターでは、来年度に向けて、その「指標」を踏まえ、前述の課題を解決できるように、初任者研修、中堅教諭等資質向上研修、課題別研修、出前講座などの各研修講座を見直し、更に充実・発展させていきます。

この3月には、新高等学校学習指導要領が告示されます。また、来年度からは新幼稚園教育要領が完全実施され、小・中学校では移行期間が始まります。さらに、大学入試改革も進められているなど、大きな教育改革の波が打ち寄せています。私たちはその波にもまれながらも、着実に前に進まなくてはなりません。教育センターはしっかりと足元を固め、進むべき方向を見据えて、「教員が学び、発達していくために支援するプロ」として、学校・教職員そして子どもたち・保護者の皆様のために、これからも学校支援・研修・研究・相談の4事業に全所体制で取り組んでいきたいと思ひます。どうぞよろしくお願いいたします。



愛媛の子どもたちのために

調査・研究発表会について

平成30年2月9日に幼稚園、小学校、中学校、県立学校、関係機関等から186名の参加者を迎えて、平成29年度調査・研究発表会を開催しました。研究主題「輝く愛顔を育む学校教育の総合的な支援」の下、基調提案、研究発表、講演を行いました。基調提案で示した「教師力・学校力の向上」「喫緊の課題の解決」の研究の柱に沿って、4本の研究発表を行いました。また、長期研修生2名と短期研修生4名の発表やえひめサイエンスリーダースキルアッププログラム事業報告を行うなど、全部で11本の発表を行いました(詳細は次ページ以降に掲載)。

その後、高知県いの町教育特使で教育実践家の菊池

省三先生による「コミュニケーションあふれる子どもを育てよう～子どもの成長につながるほめ方、叱り方を中心に～」と題した講演を行いました。一人ひとりの子どもの価値を見つめ、ほめることの大切さなど、先生の経験に基づく具体的な実践例について御講演いただき、日頃の子どもたちとの関わり方を改めて考えることができる時間となりました。

参加いただいた先生方からの御意見を生かし、来年度もより良い発表会となるようにしていきたいと思ひます。



企画開発室・教科教育室（発表1）

教員のキャリアステージに応じた資質・能力の向上を目指した研修の在り方

教育公務員特例法の一部改正を受け、教員の資質の向上に関する指標や指標を踏まえた教員研修計画の策定が義務付けられました。そこで、教員のキャリアステージに応じた資質・能力の向上を目指した研修の在り方を研究しました。

まず、中堅教員の育成、若年教員の資質・能力の維持向上をはじめとする本県の課題を明らかにしました。そして、課題の解決に向けて、これまでの研究成果を踏まえ、愛媛大学大学院露口教授の協力などを得ながら、職責や経験、適性に応じ、更に高度な段階を目指す手掛かりとなる教員のキャリアステージにおける指標（案）を検討しました。次に、指標（案）で設定したキャリアステージに応じて、教員の資質・能力が体系的・効果的に向上するよう、基礎研修の改編を中心に、指標（案）を踏まえた教員研修計画（案）を立案しました。平成30年度以降、策定された指標に基づいて教員研修を実施することになっています。今後も教員のキャリアステージに応じた資質・能力の向上を支援していきます。

平成29年度長期研修生（発表5-1・2）

保健室に頻回来室する児童への健康相談の在り方 -個別支援プログラムの作成と実践を通して- 長期研修生 亀松 千穂

保健室に頻回来室する児童に対し、養護教諭による心理検査等の客観的指標や関係教職員の観察による情報収集と情報交換により、児童の実態を多面的に把握し、支援目標を設定しました。それを基に、心理技法を組み合わせた個別支援プログラムを作成し、養護教諭が中心となって実践を行いました。

その結果、児童が学級で過ごす時間が増え、保健室への来室回数が減ったことから、個別支援プログラムの有効性が示されました。

自分の考えを適切に表現し、伝え合う力を育む指導の工夫

-ICTを活用した「話すこと・聞くこと」の学習を通して- 長期研修生 高橋 美佳

国語科の討論の単元において、タブレット端末を活用したことにより、効率的な資料収集、話の構成に応じた発表資料の作成・編集、根拠となる資料を介した話し合いが実現し、自分の考えを適切に表現し、伝え合う力を育むことができました。身に付けさせたい力を明確に示し、その力を基に自分のめあてを立てさせ、計画的に振り返らせる活動は、児童の主眼的な学びにつながることも確認できました。

情報教育室（発表2）

学校ホームページの構築支援 -XOOPSからNetCommonsへの移行-

本センターで提供している学校ホームページ作成のためのCMSであるXOOPSをNetCommonsに切り替えるに当たり、NetCommonsを利用した学校ホームページ構築研修会をESnet接続校（443校）を対象に実施しました。構築研修会においては、昨年度作成したモデルサイト及び研修テキストを、研究員からの意見等を参考に改善し活用しました。講義や実習を通して、非常に管理しやすいシステムであることを確認し、受講者からNetCommonsの簡易性や直観性のよさに関する意見を多くいただきました。

今後も、学校ホームページの構築に関する情報を提供するとともに、学校ホームページの更新に全ての教職員が関われるようにするための校内研修の支援として、ホームページ運用研修Webパッケージの提供を行います。学校ホームページの構築や円滑な移行、活発かつ安全な運用の支援を行っていきます。



教育相談室（発表3）

教育相談における教職員の能力向上に関する研究

学校教育における様々な教育活動の中で、とりわけ生徒指導上の諸問題への対応は、最優先の課題と言えます。教育相談室の相談業務の経験から、教育相談を適切に行うことが、それらの諸問題に対応するための手段として有効であり、未然防止、早期発見、早期解決の糸口につながると考えます。そこで、教職員の教育相談への意識を高め、教育相談の能力の向上を図ることを目的として本研究を2か年計画で行いました。

2年目である本年度は、協力学校において、教職員のニーズを基に作成したプレゼンテーション資料など3種類の研修資料を用いて校内・園内研修を実施し、その後、教育相談を実践してもらいました。研修後の教職員や教育相談後の教職員、児童生徒及び保護者へのアンケート結果からは前向きな意見が多く見られ、研修資料が教育相談における教職員の能力向上に役立つことが分かりました。

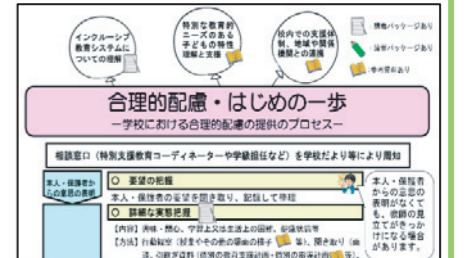


特別支援教育室（発表4）

合理的配慮についての校内研修の支援に関する研究 -研修資料の作成・活用を通して-

平成28年度から2年間研究に取り組み、1年次は、合理的配慮について全ての教職員が正しく理解するために校内研修で活用できる研修資料（試案）の作成をしました。

2年次となる本年度は、小・中学校、高等学校で研修資料（試案）を使い、検証を行いました。その結果と愛媛大学大学院榎木准教授からの助言を踏まえて、研修資料（試案）を再考しました。再考した研修資料は、合理的配慮を提供する手順や全体像をつかむための「ガイドシート」と、講義や演習で使用できる「実践資料」です。演習で使用する事例を新たに追加したり、合理的配慮の提供から評価までを具体的に示したりしました。校内での研修で御活用ください。



平成29年度調査・研究発表会発表の概要 〔研究主題〕 輝く愛顔（えがお）あられる学校教育の総合的な支援

平成28年度短期研修生（発表6-1~4）

交流発電装置の教材化に関する研究

松山東高等学校 沖田 隼也

交流分野の理解を深めるために、交流波形が観察できる、教科書モデルと同様の交流発電装置の教材開発を行いました。さらに、整流子を製作し、全波整流の観測やモーターの原理説明器としても活用ができるように改良を加えました。また、観察された交流波形の歪みに関する定量的な考察と、使用した計測器による特性比較を行いました。

水中微小生物の分類から生物多様性を伝える試み

-画像を用いた分類検索システムの作製と授業への活用-
西条高等学校 白川 忠興

学校のお堀に生息する水中微生物の検索システムを開発し、授業での活用事例についての報告を行いました。本システムでは、24種類の微生物の動画を含めて検索できるようにしました。システムを用いた生徒は、生物の多様性と、それぞれの生物が生態系の維持に役立っていることを実感すると同時に、身近な生物への関心を持つことができました。

高等学校化学におけるアミノ酸活用法

川之江高等学校 横 大輔

アミノ酸の特徴的な性質を、深く理解し、活用できる知識として身に付けさせるための実験内容を研究しました。

学校において、今回の実験を行うことで、アミノ酸に関する知識だけでなく、酸・塩基の反応や溶解度など、他分野の既習事項も確認することができると考えます。

日本の自然災害と防災

松山中央高等学校 中井 芳恵

生徒の防災・減災意識の高揚と自然災害のメカニズムに対する学習意欲の向上をねらった防災教育に関する授業実践を行いました。津波の性質を明らかにするとともに理解を深めるため、大型の津波実験装置を開発しました。自然災害に対する生徒の認識が大きく変わり、防災意識が高まりました。津波の威力を実感できる更なる工夫を今後も続けていきたいと考えています。

事業報告（発表7）

教員の科学研究指導力の向上を目指して

-えひめサイエンスリーダースキルアッププログラム事業報告-

本事業は、県立学校の数学・理科教員の課題研究指導力の向上を目的として、平成27年度から3年間、愛媛県教育委員会と愛媛大学が共同で運営をしてきたプログラムです。

プログラムでは、7月に研究計画検討会、11月に中間成果発表会、1月に成果発表会を実施し、参加教員や参加生徒が、年間を通じて目標を持って課題研究に取り組めるようにしました。また、サポートwebシステムを運用することで、参加教員が大学教員から研究に関する助言を随時受けられる体制を整えました。併せて、生徒の活動をどう評価してサポートするべきかも検討してきました。

参加校は、県内外の学会で研究成果を発表するとともに、日本学生科学賞をはじめとする科学研究コンテストで優秀な成績を収めるなど、プログラムを通して、参加教員の科学研究指導力の向上を図ることができました。

本センター研究の成果について

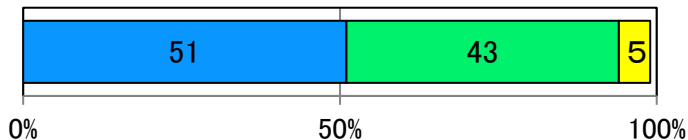
本センターの研究成果物はホームページよりダウンロードすることができますので、ぜひ、御活用ください。
アドレス <https://www.esnet.ed.jp/center/>

調査・研究発表会参加者アンケート

今年度の調査・研究発表会に参加した先生方を対象としたアンケート結果の一部を紹介します。

Q 今年度の調査・研究発表会の発表では、有益な情報を得ることができましたか。

■できた ■ある程度できた ■あまりできなかった ■できなかった



【研究発表等について】

- 今後身に付けるべき資質能力について把握することができ、今後の研修の在り方について見通しを立てることもできるなど、大変参考になった。学び続けることのできる教員でありたいと強く思った。(発表1)
- ホームページに関しては、担当者に頼っている部分が多いが、全教職員が理解しておく必要があり、校内研修の必要性を実感した。校内研修Webパッケージの活用について、学校で伝えていきたい。(発表2)

- 教育相談の必要性を感じていても、個々のやり方に任せている部分が多い。「やってみなかね教育相談」を積極的に活用し、全教職員の教育相談への知識・技術の向上につなげたいと感じた。(発表3)
 - 合理的配慮について、理論的なことだけでなく、どのように進めていくか具体的に分かりやすく研修ができる内容であった。全教職員が正しく理解してこそ、合理的配慮が提供されるのだと実感した。(発表4)
 - 個別支援の具体的なプログラムについて教えていただき、参考になった。養護教諭の専門性についても再確認できた。(発表5-1)
 - ICTの活用が、児童たちの「話すこと・聞くこと」に効果があるだけでなく、意欲的に活動する姿勢が育まれていくことが分かった。(発表5-2)
 - 各科目の昨年度の取組内容がよく分かった。参考にしたい。(発表6)
 - サイエンスリーダーを育成することは、日本の将来を見据えたすばらしい取組だと感じた。(サイエンス)
- ### 【講演について】
- 楽しく講演を聴かせていただいた。テンポよく、笑顔あふれる学びの場が、意欲的な学びにつながることを実感した。自分の実践につなげていけるよう学び続けていきたい。

平成30年度研修講座に関するお知らせ

中堅教諭等資質向上研修の新設について

教育公務員特例法の一部改正に伴い、10年経験者研修を中堅教諭等資質向上研修に改め、実施時期の弾力化を図るとともに、中堅教諭等としての職務を遂行する上で必要とされる資質の向上を図るための研修とすることになりました。本県では、移行措置期間を設けながら、在職期間が5年に達した者にキャリアアップ研修Ⅰを、在職期間が10年に達した者又は在職期間が9年に達した者の内35歳以上の者にキャリアアップ研修Ⅱを、40歳に達した者にキャリアアップ研修Ⅲを順次実施していきます。まず、平成30年度は、キャリアアップ研修Ⅰ、Ⅱを実施します。

キャリアアップ研修Ⅱの選択研修について

キャリアアップ研修Ⅱにおいては、選択研修として

希望研修である課題別研修から3講座を選択します。ただし、県教育委員会が指定した研修の受講者、教育に関する資格等を有する方、免許更新講座を受けた方には、一部講座の免除があります。講座選択は、本センターホームページから行えるようにする予定です。

課題別研修について

キャリアアップのために職務実践力の向上を図る課題別研修は、これまで通り、希望研修としても実施します。今年度の52講座から拡充した61講座を、基礎的内容の実践力向上研修と、応用的内容のキャリアデザイン研修の二つのカテゴリーに分け、先生方のスキルやキャリアステージに合った研修を提供します。皆様の受講をお待ちしています。

研修の受講に関する詳細は後日連絡いたします。

交通安全推進メールマガジンの配信について

これまで、各校が取り組まれた交通安全推進研修会の取組事例や交通安全に関するサイトの情報等を紹介してまいりました。今後も有益な情報の発信に努めますので、教職員の交通事故・交通違反の撲滅を目指して、交通安全研修に積極的に活用していただければ幸いです。



所報「育心拓夢（いくしんたくむ）」について

この言葉は本センターが現在の地に移転した昭和57年頃、当時の所員が作った言葉で、敷地内にある石碑に刻まれています。「総合教育センターでは、子どもたちが確かな学力を身に付け、豊かな『心を育む』こと、また、自らの力で未来への『夢を拓く』ことができるように学校支援を行う」という強い思いが込められています。